

チケットの購入方法

○川商ホールへ電話でご予約⇒窓口または郵送で受取 空いている座席をご案内いたします。座席図をご覧くださいながら座席をご指定下さい。ご予約確定後、チケット代金を窓口でお支払いいただくか、チケット代金+送料¥404を2週間以内にご入金下さい。

入金方法

●窓口による入金の場合

公演名とご予約者のお名前をお伝えください。お支払い後、その場でチケットをお渡しいたします。

●銀行振込による入金の場合

チケット代金+送料¥404を下記の何れかの口座にお振込みください。なお、振込手数料はお客様のご負担でお願い致します。チケットは入金確認後に発送いたします。

鹿児島銀行 支店名:本店 口座種別:普通預金
口座番号:3141866
口座名義:公益財団法人かごしま教育文化振興財団 理事長 森博幸

南日本銀行 支店名:本店 口座種別:普通預金
口座番号:1382356
口座名義:公益財団法人かごしま教育文化振興財団 理事長 森博幸

●現金書留による入金の場合

チケット代金+切手¥404を同封してお送りください。なお、現金書留代はお客様のご負担でお願い致します。チケットは入金確認後に発送いたします。

現金書留の送付先 川商ホール「公演名」チケット係
〒890-0062 鹿児島市与次郎二丁目3番1号

●プレイガイドで購入

店頭で、座席を確認して購入できます。

■谷山サザンホール(099-260-2033) ■山形屋(099-227-6820)
■十字屋 CROSS(099-239-9928) ■鹿児島音協(099-226-3465) ■コープサービス(099-286-1138)

●コンビニで購入

●チケット代の他に、1枚あたり110円の店頭発券手数料が必要です。
●ファミリーマート以外は、各公演ごとに定められた6桁のPコード(214-035)、Lコード(84757)での検索がスムーズです。
●事前にインターネットや電話で予約した場合は、所定のシステム手数料がかかりますのでご注意ください。
●ご利用可能な支払方法:現金、クレジットカード(種類はご利用店舗でご確認ください)。*セブンイレブンはnanaco可(ポイント付与なし)

●インターネットで購入

詳しくは、右記サイトを検索してください。 ■チケットぴあ ■イープラス ■ローソンチケット

会場へのアクセス

●鹿児島市営バス ■16番/鴨池港・文化ホール線 ●鹿児島交通バス ■32-1番/鹿児島中央駅前・鴨池港線
■27番/県庁・与次郎線
●駐 車 場 ■365台(川商ホール)/1回 200円

託児サービス(要予約)

お子様一人につき1,000円(税込)、満3ヶ月から小学校低学年

申込期限 2023年2月24日(金)、申込先 子育て支援サービス マミーズ(099-254-2811)

申込先:子育て支援サービス マミーズ(099-254-2811)

ご来場の皆様へのお願い

●咳エチケットや手洗い、消毒液の使用、マスクの着用、当日の検温実施をお願いいたします。
●発熱がある場合や体調不良の方はご来場をお控えください。
●お客様の連絡先の確認と感染が発生した場合の必要な調査にご協力ください。
●感染症対策をとりながら、100%での座席設定にて販売いたします。なお、新型コロナウイルス感染症の状況により、公演の取扱いが変更となることがありますのであらかじめご了承ください。

公益財団法人 かごしま教育文化振興財団 川商ホール
(鹿児島市民文化ホール)
TEL.099-257-8111 <http://www.k-kb.or.jp/shibun/>



40th
Anniversary

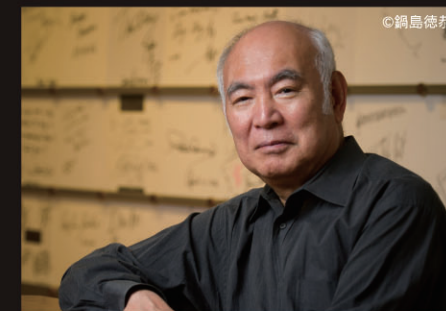
鹿児島市民文化ホール
開館40周年記念公演

下野竜也 指揮 広島交響楽団 Hiroshima Symphony Orchestra

チェロ 堤剛 ヴァイオリン 徳永二男 ピアノ 清水和音
客演コンサートマスター:四方恭子

2023.2/26日

開演15:00(開場14:00)



演奏予定曲目

■ベートーヴェン: ピアノ、ヴァイオリン、チェロのための三重協奏曲
■マーラー:「交響曲第1番(巨人)」

川商ホール 第1
(鹿児島市民文化ホール)

全席指定 | S席 6,000円・A席 5,000円・B席 4,000円

※各席高校生以下半額

一般発売日/令和4年11月26日(土)10:00~ 友の会先行予約期間:11月19日(土)10:00~11月25日(金)
※初日はお電話のみとなります

プレイガイド | 川商ホール(鹿児島市民文化ホール) 099-257-8111 | 谷山サザンホール 099-260-2033 | 山形屋 099-227-6820 | 鹿児島音協 099-226-3465 | チケットぴあ Pコード:214-035
| ファミリーマート(イープラス) | 十字屋CROSS 099-239-9928 | コープサービス 099-286-1138 | ローソンチケット Lコード:84757

主催/公益財団法人かごしま教育文化振興財団 川商ホール(鹿児島市民文化ホール)

開館40年の節目、そして新しい次のステージを彩る下野×広響と日本を代表する豪華客演! これ以上ない至高の組み合わせでお届けするのは、超貴重なベートーヴェンのトリプルコンチェルト&マーラー「巨人」!



©Naoya Yamaguchi (Studio Diva)

下野 竜也 (指揮者)

Tatsuya Shimono, Conductor



©鍋島徳彦

堤 剛 (チェロ)

Tsuyoshi Tsutsumi, Violoncello



©ヒダキトモコ

徳永 二男 (ヴァイオリン)

Tsugio Tokunaga, Violin



©Mana Miki

清水 和音 (ピアノ)

Kazune Shimizu, piano

広島交響楽団

Hiroshima Symphony Orchestra

1969年鹿児島生まれ。鹿児島大学教育学部音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部附属指揮教室で学ぶ。1996年にはイタリア・シエナのキジアーナ音楽院でオーケストラ指揮のディプロマを取得。1997年大阪フィル初代指揮研究員として、(故)朝比奈隆氏をはじめ数多くの巨匠の下で研鑽を積む。1999年文化庁派遣芸術家在外研修員に選ばれ、ウィーン国立演劇音楽大学に留学、2001年6月まで在籍。

2000年東京国際音楽コンクール<指揮>優勝と齋藤秀雄賞受賞、2001年ブザンソン国際指揮者コンクールの優勝で一躍脚光を浴び、以降、国際的な活動を展開。国内の主要オーケストラに定期的に招かれる一方、海外においても、ローマ・サンタ・チェチリア国立アカデミー管、ミラノ・ヴェルディ響、ストラズブルフィル、ボルドー管、ロワール管、ウィーン室内管、カンヌPACA管、チェコ・フィルハーモニー管、シュツットガルト放送響、南西ドイツフィルコンスタンツ、シリコンバレー響、バルセロナ響、シンフォニア・ヴァルソヴィアなど次々と客演を重ねている。

読売日本交響楽団の初代正指揮者(2006年11月~2013年3月)を経て、同団首席客演指揮者(2013年4月~2017年3月)として、10年余りの間にヒンデミットとドヴォルジャークを軸としつつ新作初演まで取り組む意欲的な姿勢とプログラム構成で高い評価を獲得。更に2014年4月からは京都市交響楽団の常任客演指揮者に就任し、2017年4月から2020年3月までは、同団常任首席客演指揮者として活躍した。2011年から音楽監督を務める広島ウインドオーケストラとは、吹奏楽の分野に新たな一石を投じる活動で注目を集めている。2017年4月広島交響楽団音楽総監督に就任。これまでに、2002年出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、2006年第17回新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞、2007年第6回齋藤秀雄メモリアル基金賞、平成24年度(第63回)芸術選奨文部科学大臣賞、平成25年度第46回MBC賞、2014年度第44回東燃ゼネラル音楽賞奨励賞、平成28年第67回南日本文化賞特別賞、2021年度第41回有馬賞などを受賞。

鹿児島市ふるさと大使。おじゃんせ霧島大使。太鼓芸能集団「鼓童」ミュージックアドバイザー。京都市立芸術大学音楽学部指揮専攻教授、東京音楽大学吹奏楽アカデミー特任教授、東京藝術大学音楽学部指揮科非常勤講師として後進の指導にもあたる。

■公式ホームページ <http://www.tatsuyashimono.com/>

名実ともに日本を代表するチェリスト。幼少から父に手ほどきを受け、1950年に8歳で第1回リサイタルを開いた。桐朋学園子供のための音楽教室、桐朋学園高校音楽科を通じ齋藤秀雄に師事、その後1961年アメリカ・インディアナ大学に留学し、ヤーノシュ・シュタルケルに師事。63年よりシュタルケル教授の助手を務める。同年ミュンヘン国際コンクールで第2位、ブダペストでのカザルス国際コンクールで第1位入賞を果たし、以後内外での本格的な活動を開始。現在に至るまで、日本、北米、ヨーロッパ各地、オーストラリア、中南米、アジアなど世界各地で定期的に招かれ、オーケストラとの協演、リサイタルを行っている。

その他主な受賞は、1971年島井音楽賞(現サントリー音楽賞)、1973年「ウジェーヌ・イザイ・メダル」(ベルギー)、1974年「芸術祭放送大賞」、1980年「芸術祭優秀賞、レコードアカデミー賞」、1987年「モービル音楽賞、N響有馬賞」、1993年「日本芸術院賞」、1998年「中島健蔵音楽賞」などを受賞。2009年秋の紫綬褒章を受章。また同年、天皇陛下御在位二十年記念式典にて御前演奏を行った。2013年、文化功労者に選出、2014年インディアナ大学より「トーマス・ハート・ベントン ムーラルメダル」、2016年「ウィーン市功労名誉金章」受章、『2016年度毎日芸術賞音楽部門』、2018年「文化庁創立五十周年記念表彰」など多数受賞、表彰されている。

近年では、サントリーホール、みなとみらいホール、軽井沢大賀ホール、札幌kitaraコンサートホール等でのJ.S.バッハ「無伴奏チェロ組曲全曲演奏会、ピアノのフツピンダーとのベートーヴェン:チェロ・ソナタ全曲演奏会など益々精力的に活動の場を広げている。2020年秋にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団日本公演においてソリストを務め、大反響を呼んだ。

録音においては、近年では「フランク&R. シュトラウス:ソナタ」と「ラフマニノフ:チェロ・ソナタ & ベートーヴェン:チェロ・ソナタ第4番」(ピアニストは共に萩原麻未)を、マイスターミュージックより2017年と2019年にそれぞれリリースし、2020年12月の新譜「肖像」はレコード芸術誌の特選盤に選出されている。

2020年秋にはウィーン・フィルハーモニー管弦楽団日本公演においてソリストを務め、大反響を呼んだ。カナダ・西オンタリオ大学准教授、アメリカ・イリノイ大学教授(1984~1988年)、インディアナ大学教授(1988~2006年)を経て、現在、桐朋学園大学特命教授(前学長2004~2013年)、韓国国立芸術大学客員教授、霧島国際音楽祭音楽監督、公益財団法人サントリー芸術財団代表理事、サントリーホール館長、日本芸術院会員、公益社団法人日本演奏連盟理事長。

人気、実力ともに日本を代表する音楽家。ヴァイオリニストの父茂および鷺見三郎氏に師事。桐朋学園にて、齋藤秀雄氏に師事。1966年、当時日本楽壇史上最年少のコンサートマスターとして東京交響楽団に入団。1968年、文化庁在外派遣研修生としてベルリンへ留学、ミシェル・シュヴァルベ氏に師事。1976年、NHK交響楽団のコンサートマスターに就任。その後首席第一コンサートマスターを経て、ソロ、コンサートマスターの重責を担い、長年NHK交響楽団の“顔”として抜群の知名度と人気を誇る。NHK交響楽団在籍時代よりヨーロッパ、アメリカ各地から招かれ、とりわけ、ケルンでの現代音楽祭、ベルリンの日独センター柿落とし公演での、ヴォルフガング・サヴァリッシュ氏との室内楽コンサート、ニューヨークのカーネギーホールでの室内楽コンサートに出演して絶賛を博した。

1994年にNHK交響楽団を退団し、ソロ、室内楽に専念。1992年より鎌倉芸術館「リステン」を主宰し、1995年から2013年までJTアートホール室内楽シリーズの音楽監督を、1996年からは宮崎国際音楽祭の総合プロデューサーを経て2011年からは音楽監督を務めるなど、日本音楽界の中心的立場を確固たるものとしている。

ソリストとしても、モントリオール交響楽団やイギリス室内管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団など、国内外の主要オーケストラからたびたび招かれている。2008年から毎年、東京でリサイタル・シリーズを行う一方で、トーク・コンサート、タンゴ・コンサートなど、幅広い演奏会を全国で行っている。2015年は、テイボール・ヴァルガ・シオン国際ヴァイオリンコンクールの審査員を務めた。2016年には、楽壇生活50周年を迎え、多くの記念公演を行い、文化庁長官表彰を受ける。

近年は指揮者として、東京フィル、広島響、宮崎国際音楽祭管弦楽団などと共演。2018年には、ギドン・クレーメルをソリストに迎え、クレメラータ・バルチカと広響の合同オーケストラを指揮して好評を博した。2020年のベートーヴェンイヤーには、仲道都代氏とヴァイオリン・ソナタ全曲演奏会を行い好評を博す。21年は、楽壇生活55周年を迎え、多くの演奏家や弟子たちが国内外から集い、サントリーホールにて記念演奏会を行う。

CDは、ブラームスのヴァイオリン・ソナタ全集、ベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタ全集や、バガニーニのカプリースなどをリリースしており、最新盤は「徳永二男プレイズ R.シュトラウス ヴァイオリン・ソナタ」(オクタヴィア・レコード)。

完璧なまでの高い技巧と美しい弱音、豊かな音楽性を兼ね備えたピアニスト。

ジュネーヴ音楽院にて、ルイ・ヒルトブラン氏に師事。1981年、弱冠20歳で、パリのロン＝ティボー国際コンクールピアノ部門優勝、あわせてリサイタル賞を受賞した。1982年、デビュー・リサイタルを開き、高い評価を得た。1983年、第9回日本ショパン協会賞を受賞。同年「ブラハの春音楽祭」にて、ブラハ室内管と共演。この成功により1984年、プラティスラヴァ音楽祭のオープニングでスロヴァキア・フィルのソリストとして招待された。また同年、ミュンヘンのヘラクレス・ザールでデビュー・リサイタルを行った。ロジェストヴェンスキー指揮ロンドン交響楽団、ジャンンドレア・ノセダ指揮キーロフ歌劇場フィルハーモニー管弦楽団、ゲルギエフ指揮マリンスキー歌劇場管弦楽団、アシュケナージ指揮シドニー交響楽団などと共演を重ね、国内外で広く活躍。室内楽の分野でも活躍し、共演者から厚い信頼を得ている。

1995年秋から2年にわたって行われた、ベートーヴェンのピアノ・ソナタ全32曲演奏会は、その完成度を新聞紙上で高く評価され、ライブ録音がリリースされている。これまでにソニーミュージックやオクタヴィア・レコードなどから多数のCDをリリースし、各誌で絶賛されている。

2011年には、デビュー30周年を記念して、ラフマニノフのピアノ協奏曲第1番~第4番とバガニーニの主題による狂詩曲の全5曲を一度に演奏するという快挙を成し遂げた。2014年から2018年の5年間では春秋・年2回のリサイタル・シリーズ「清水和音 ピアノ主義」を開催。スカララティとバッハに始まり、古典派からロマン派を中心に20世紀のピアノ曲まで、幅広いレパートリーで聴衆を魅了した。デビュー35周年を迎えた2016年5月には、バグティストーニの指揮で、ブラームスのピアノ協奏曲第1番及び第2番を熟演。同年4月からは、年6回の室内楽シリーズ「芸術プランチコンサート」を開始するなど精力的な活動を続けている。デビュー40周年となる2021年には、春に毎年開催している「3大ピアノ協奏曲の饗宴」で、ベートーヴェンの「皇帝」チャイコフスキー第1番そしてラフマニノフ第2番の3曲を一気に披露。秋には「清水和音 ピアノの祭典」と題し、ソロから室内楽まで4時間を超えるプログラムで大きな存在感を示した。桐朋学園大学・大学院 教授

国際平和文化都市「広島」を拠点に「Music for Peace~音楽で平和を~」を旗印として活動するプロオーケストラ。2017年より下野竜也が音楽総監督を務め、その意欲的な音楽づくりが注目を集めている。クリスティアン・アルミンクが首席客演指揮者、秋山和慶が終身名誉指揮者を務めるほか、ウィーン・フィル、コンサートマスターのフォルクハルト・シュトイデをミュージック・パートナーに、細川俊夫をコンポーザー・イン・レジデンスに迎えている。また、ピアニスト、マルタ・アルゲリッチには2015年の「平和の夕べ」コンサートでの共演をきっかけに広響「平和音楽大使」の称号を贈り、相互に平和を希求する音楽活動を続けている。

1963年「広島市民交響楽団」として設立、1970年に「広島交響楽団」へ改称。学校での音楽鑑賞教室や社会貢献活動にも積極的に取り組み、地域に根差した楽団として「広響」の愛称で親しまれる。1991年の「国連平和コンサート」(オーストリア)での初の海外公演以降、チェコ、フランス、ロシア、韓国、そして2019年にはポーランド・ワルシャワでの「ショパンと彼のヨーロッパ国際音楽祭」に招かれ、ヒロシマのメッセージを音楽で海外へも発信。

現在は年10回の定期演奏会、呉・福山・廿日市・鳥根での地域定期やディスカバー・シリーズ、「音楽の花束」名曲シリーズをはじめ、県内における移動音楽教室、巡回コンサートから各種依頼公演など年間約140回を超える演奏活動を行っている。2011年4月より公益社団法人としての認定を受け、学生インターンシップの受け入れや、「P3HIROSHIMA」として地元プロ団体、広島東洋カープ、サンフレッチェ広島とのコラボレーションによる幅広い地域社会貢献活動を行い「音楽の芽プロジェクト」として発信している。

これまでに「広島市政功労賞」「広島文化賞」「広島ホームテレビ文化賞」「地域文化功労者賞(文部大臣表彰)」「第54回中国文化賞」「第17回県民文化奨励賞」「第5回国際交流奨励賞」「文化対話賞(ユネスコ)」「広島市民賞(2013年度)」「ENEOS音楽賞(奨励賞)」を受賞。

■公式ホームページ <http://hirokyo.or.jp>